

令和6年度 学校評価 年度末の自己評価

令和6年度重点事項 多様な課題を抱えた生徒が落ち着いて学べる学校づくりを目指す。
(評価: A (4.0～3.4)・・・十分達成できている B (3.3～2.8)・・・おおむね達成できている C (2.7～2.1)・・・やや不十分である D (2.0以下)・・・不十分である)

令和6年度 努力事項	担当部署	今年度の実践目標・スケジュール・評価指標	前期の成果・後期に向けての課題	評価	今年度の成果・ 来年度に向けての課題
1 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	保健部 各担任	・体験カウンセリングを1年生全員に年1回行う。 ・生徒自らがカウンセリングを申し出る環境づくりを目指す。 ・職員対象のカウンセリング研修会を年2回行う。 ・個人面談を年2回以上、三者面談を年1回以上行う。 ・生徒の勉強と仕事の両立を目指し、家庭訪問や職場訪問を行い、生活状況や職場環境を把握し、家庭・職場・学校の連携を図る。 ・生徒の観察と情報共有をきめ細かく行い、いじめの未然防止・早期発見に努める ・いじめの兆候を認めたら、いじめ対応チームを中心に迅速かつ組織的に対応し解決をはかる。また必要に応じて関係機関との連携をはかる。 ・クラスになじめない生徒のために、生徒同士が会話できる環境を作る。	<成果> ・カウンセリングの活用や、個人面談など生徒と話をする機会を多く設け、生徒の状況を把握できている。 ・継続的にカウンセリングが必要と判断する生徒には、毎回声を掛け状況を確認しカウンセリングを実施している。 ・1年生を対象に小川カウンセラーによるカウンセリング講話を実施した。 ・カウンセリングの会話の中で、授業に「楽しさ」「喜び」を感じている生徒がいた。 ・夏季休業中にHR担任が生徒の職場訪問を行い、職場環境の把握や、学校と職場の連携を図っている。 ・生徒について健康状態も含めて把握している。また、万一の場合に備えて個々の生徒の対処を職員研修によって対応している。 ・4年生を対象に、救急救命法講習会を実施した。 <課題> ・2学期に入り、生徒によっては多少の環境の変化があるはずなので、変化を見逃さないように引き続き面談等を行いたい。 ・クラスになじめない生徒のカウンセリングの実施を勧めたい。 ・問題行動を起こす生徒については、心の内面を理解するためにもカウンセラーとの連携がさらに必要となる。 ・引き続きカウンセリングを実施し、生徒の状況を共有し連携を図る。 ・職員対象のカウンセリング研修会を11月～12月実施で調整中。	A 平均 3.6	<今年度の成果> ・1年生全員に体験カウンセリングを実施することで、カウンセラーとの繋がりが生まれ、生徒が自らカウンセリングを申し出やすくなった。 ・継続的なカウンセリングが必要と判断された生徒には、担任と状況を確認しながら、毎回声を掛けてカウンセリングを行っている。 ・入学直後に小川カウンセラーによる講話を実施し、生徒は自己理解やアイデンティティについて学んだ。 ・職員対象のカウンセリングマインド研修会では、「自分を知るワーク」を通じて、他者から見た自分や自己認識を深め、対人関係に影響を与える要因を理解するきっかけとなった。教員は普段、他者の様子には敏感であっても自身の内面について考えることは少ないため、この研修は良い機会となった。 ・小野市消防署から講師を招き、4年生および教職員を対象に救急救命法講習会を実施した。 ・各学期初めに個人面談を実施し、7月と12月には三者面談を行うことで、生徒と保護者との意思疎通を円滑に図ることができた。 ・1年生は1学期に家庭訪問を実施した。 ・生徒の職場訪問を行い、職場での生徒の様子を把握するとともに、学校での情報を職場に伝え、学校と職場の連携を強化した。 ・生徒の観察と情報共有を通じて、いじめの未然防止と早期発見に努めた。 ・生徒との対話を意識し、何かあった際に相談しやすい人間関係を築くように心掛けた。 ・日常生活を見守り、異変を感じた際にはすぐに個別面談やカウンセリングを実施し、生徒が落ち着いて学校生活を送れるよう支援した。 ・生徒間、教員間、さらには生徒と教員の間で、円滑なコミュニケーションが取れるよう意識的に配慮した。 ・保護者への連絡はきめ細かく行い、その結果、保護者と学校との信頼関係が深まった。なお、本校定時制ではWebによる欠席連絡を行っておらず、今後もその予定はない。 <来年度に向けての課題> ・カウンセラーと担任が、カウンセリングを受けた生徒のことを話し合える時間があればよい。 ・守秘義務はあるが、スクールカウンセリングなので、生徒情報としてフィードバックがあればよい。できるだけ学校として、生徒の悩みを把握しておく必要がある。 ・引き続き、個々の生徒の健康状態を把握し、万が一に備えて職員も対応できるように定期的に職員研修を図る。 ・職員対象のカウンセリングマインド研修会を実施して、生徒理解への学びを深める。 ・距離感がわからない生徒や、会話が苦手な生徒もいるため、生徒間の言葉使いや接する態度など、時間をかけて教えていく必要がある。 ・クラスに馴染めない生徒が出ないように、積極的な支援や働きかけを行う。

[illegible]

3 家庭・地域と連携した教育活動の推進	総務部 生徒指導部 (情報教育委員会)	・学校HPの更新を頻繁に行い、日々の出来事や学校の様子を伝える。 ・年3回の地域清掃活動に全生徒が最低1回は参加し、地域社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア精神を培う。 ・わいわい小学生工作教室等の実施にあたり、早い段階から生徒に告知し、全校生徒の10%程度がこれらの取組みに参加する。 ・「課題研究」での授業実践を外部イベント等の場に生かすことや地域より依頼のあった作品作りを通じて、ふるさと貢献活動の内容を深める。 ・ボランティア活動に自主的に取り組む生徒をさらに増加させるため、オリエンテーション等を実施する。	<成果> ・保護者とは良好な関係であり、協力して育てることができている。 ・学校行事の度にHPを更新している。さらに、中学生向けに実習の様子なども公開していきたい。 ・家庭訪問や家庭連絡をまめに行い、家庭との連携はしっかりとれている。 ・清掃活動も積極的にごみ拾いなどを行っていた。 ・多くの生徒が地域貢献活動に参加するようになった。 ・わいわい小学生工作教室に生徒が指導者役として参加できた。 ・ふるさと貢献活動として「ひまわりを咲かせて贈呈する」という新しい取り組みをした。 <課題> ・学校HPを充実させる。 ・地域や保護者のために、生徒自身が何か提案し、実行に移していきたい。 ・多くの生徒が工作教室に参加する。	B 平均 3.3	<今年度の成果> ・学校のようなすを、HPを通して発信した。 ・毎月、学年通信の発行で学校のようなすを伝えた。 ・地域清掃活動では、参加者が年々増えてきている。まじめに取り組んでいる。 ・多くの生徒が積極的に参加した。 ・ボランティア活動の意義ができたように思える。 ・年3回の地域清掃活動の取り組みにより、神戸電鉄から感謝状を頂いた。 ・工作教室には生徒会役員を中心に参加して、しっかりと小学生に指導できていた。 ・昨年度より、小野市の陣屋祭りにも、工作教室のブースを出店して工作教室を実施した。今年度も引き継ぎ、実施予定。 ・課題研究で作成したハンドベルを地域に贈ることができた。 ・保護者への連絡を密にして、意思の疎通を図ることができた。 ・連絡をまめに行うことにより、良好な関係で、協力して育てることができている。 ・保護者アンケートを見るに、家庭程連携がうまくとれていないように思われた。この項目は自己評価は高かっただけに、保護者アンケートとのギャップに驚いた。 <来年度に向けての課題> ・学校HPの更新を頻繁に行い、日々の出来事や学校のようなすを伝える。 ・臨時休校などの緊急連絡を、学校HPを利用して行ったが、一斉メールのような方法も検討する必要がある。 ・工作教室の指導者役としての参加だけではなく、準備等も含めて運営する機会を生徒とともに作りたい。工具の準備、材料の準備などを行うことにより準備の大切さを学ぶことができる機会にもなると思う。 ・わいわい工作教室には生徒会からだけではなく、1年生からの参加があればよい。また、自主的な参加を促したい。 ・引き続き、学期毎に、ふるさと貢献事業を通じて校内外の清掃作業を実施する。 ・4年生の清掃活動の参加が悪かった。卒業が近づいても、学校への意識を持ち続けて学校行事に積極的に参加するように促す。 ・家庭連絡を密にする以外に解決策はないように思われるが、抜本的な解決策が見えていないわけではないのが悩ましい。
(1)家庭や地域への情報発信					
(2)地域への貢献活動や交流					
【ありたい姿】					
・学校と家庭とが連携して生徒を育てる体制ができている。					
・生徒が地域社会に出て地域に貢献し、地域を支える一員としての実感を持てている。					

5	キャリア教育の推進	進路指導部 機械科	・地元企業や生徒が現在勤めている企業などとの連携をはかるとともに、進路実現に向けて生徒の意識を高め、正規雇用率 70%を維持する。 ・学校でのものづくりや資格取得をとおして望ましい職業観・勤労観を身につけさせる。 ・1 年生全員が計算技術検定 4 級に合格する。 ・2 年生の 30%の生徒が基礎製図検定に合格する。 ・3 年生の 10%の生徒が情報技術検定 3 級に合格する。 ・進学資料を充実させるとともに、進学した卒業生の紹介もしていく。 ・資格・検定を積極的に受検する生徒を増やし、補習内容を充実させるなど、よりきめの細かい指導を行い、取得者を増やす。 ・在校生の就業率 90%程度を維持するため、就業指導と個別指導を行う。 ・ホームルームなどを利用し、進路について考える機会を持つ。 ・採用試験での面接などを想定し、普段から言葉遣いや礼儀作法などを学ぶ機会を設ける。 ・進路講演会を実施し、困難を乗り越え目標実現に向けて努力する心を育てる。	<成果> ・在校生の 70%以上がアルバイト等の仕事に就いている。 ・アルバイトをする生徒が増え、就業意欲があがり、積極的に働いている。 ・進路についても、少し考えながら職場を探している。 ・1 年生のアルバイトに関しては現在、ほとんどの生徒が取り組めており、初動としては順調である（令和 6 年度入学生以降は 2 年次以降、就労していない者は教科書代給与なし）。 ・計算技術検定 4 級を 1 年生の大半が取得できている。 ・三修生の生徒が機械製図検定に合格した。 ・第二種電気工事士の資格に合格する生徒（外国籍）がでた。担当教員の指導、本人の努力により、達成できた。他の生徒も、電気工事士の資格は国家資格であることがわかり、意欲を高めた。 ・4 年生の新規就職希望者に進路ガイダンスを実施し、面接対策として、身だしなみやマナー、あいさつ、自己 PR、志望動機等のポイントを学んだ。 ・三修生の生徒は公務員試験の合格に向けて学習を進めている。 <課題> ・計算技術検定 4 級がまだの生徒が合格し、全員取得する。 ・三修生の基礎製図検定の合格率(17%)を上げる。 ・在校生の就業率を上げるために、就業指導や個別指導を行う。 ・受検する資格によってテキストのみで学習させておくのではなく、時間のあ る限り理解できない部分も含め手を加えて教えてやることが大切。 ・アルバイトを始められていない生徒、行動ができない生徒がいるため、少し ずつでも動けるように支援していきたい。 ・進路意識を高めること。 ・ホームルーム等で卒業後の進路について考える機会を設ける。 ・在学生の飲食店での仕事が多く、卒業後の継続が難しい。特別な事情なくアル バイトを行っていない生徒が複数人いること。	<今年度の成果> ・正規雇用の就職希望者全員が、内定を頂いた。 ・在校生の 79%がアルバイト等の仕事に就いている。 ・資格・検定に興味を持ち、積極的に受検する生徒が増えてきた。 ・2 年生の 39%の生徒が基礎製図検定に合格した。 ・3 年生の 16%の生徒が情報技術検定 3 級に合格した。 ・第二種電気工事士に 1 名が合格した。 ・来年度の第二種電気工事士の試験に向けて、教員 2 名、生徒 3 名が受験予定である。 ・パソコン利用検定 3 級に 1 名の生徒が受験し合格することができた。 ・3 年生に卒業後の進路について考える、ハローワークの進路ガイダンス(キャリア形成支援期コース)を実施できた。 ・4 年生の新規就職を希望する生徒に、ハローワークの進路ガイダンス(就職活動支援期コース)を実施できた。 ・自分から挨拶ができるようになった ・仕事と掛け持ちしながらも、定刻の授業時間に遅れてくる生徒が少なくなった。 ・検定試験にも意欲的であった。 <来年度に向けての課題> ・アルバイトを継続できずやめてしまっている子が多くいるので、なるべく辞めず、継続するように指導していきたい。 ・来年度から教科書給与のルールが変更されるので、全生徒が有職生徒になれるように、はたらきかけたい。 ・自分の将来に対するイメージをホームルームの時間や、実際の仕事を通して考えさせ、進路希望が「未定」の生徒を少しでも減らす。 ・ものづくりを通して、職業観・勤労観を身に付けさせる。 ・採用試験での面接などを想定して、言葉遣いや礼儀作法などを学ぶ機会を早くからつくりたい。 ・早い段階で、進路（就職）を意識させ、有利になる資格取得を目指させたい。
A 平均 3.6					

学校評議員会・学校運営協議会でのご意見（令和 7 年 2 月 27 日(木)）

- ・情報発信について、文字ばかりになると見にくい。写真ばかりだと情報がわからないので、うまくバランスがとれた情報発信をしてほしい。また、情報発信があれば保護者に対して、プッシュメールで知らせてもらえると確認しやすい。
- ・保健室にくる生徒で、やけどの項目が多い。実習の安全には十分に指導されていると思うが、注意喚起の徹底をお願いしたい。
- ・退学者が昔に比べれば、大幅に少なくなってきているが、やはり一定数はいる。目標をもって入学してきた生徒が卒業まで頑張れる指導を今後もよろしくお願いします。
- ・若い卒業生が、実体験をもとに「就職するとはこういう事」、「こんな勉強をもう少ししておけばよかった」などを話してもらう機会をぜひ作ってほしい。